今月は、11月に開催された「秋の文化祭 (俳句・短歌作品)」をご紹介します。

落つる日に

染まりて揺るる 秋桜

曼荼羅の炎は闇に立ちのぼり

信者らの心経浜にとよもす

篠崎 君子(上吾川)

(敬称略)

石山に 小流れの ありありと 先に海あり 花野かな 峠を降りる 薄紅葉 長岡冨士子(

生れて疎らの 白芒 藤谷 満(稲 荷

松に習はむ 芭蕉句碑 参波(森

色変へぬ

澄む水に 風が押し 赤とんぼ ジャングルジムの 児に群れて 赤の溢るる 金魚玉 流れが戻す 田村 千恵子(稲 佐山 あき(尾 かいつむり 成本 良子(稲 田中京子(下吾川

崎)

わが憂ひ常聴きくれし兄が亡く

心さまよふ時は探しぬ

篠﨑

荷

荷

村上 カツミ(下吾川)

森

謂れわが説く老いの集ひに秋空に菩提樹茂る盛景寺の

彼岸過ぎて四十度越すトマトハウス 滴りおつる汗が目にしむ

車椅子に夫を乗せての通院か 平らなところ選りつつ押しゆく 宮岡 悦子(米

湊

今宵聞く鈴虫の音は幾重にも ひびくわが部屋寝ね難くをり 向井 千慧子(上吾川)

仲見世の土間のままなる店に入り 千代紙柄の手帖もとめぬ 山内 カヲル(湊

町

淡紅の鰯雲ゆく 門下展終へしあしたの空高く 川 貞子(湊

町

ただ一度妻の肩寄せ撮らせるを フレーム添へて子は送り来ぬ 上岡 哲男(中 Щ

広きオクラの葉先巧みにその身巻き 巣ごもる虫か秋の深みを 大西 カズヱ(上唐川)

花びらとともに背を押す風ありて 鳥も柵にとまり揺れをり 古角 明子(下吾川)

満月の

山しづもりて 光浴ぶ

石丸 ユミ子(米

湊

ゆく秋の

雲流れ来て 流れゆく

井上 つた子(米

湊

粗に密に

野仏囲む 曼珠沙華

山本 利百栄(灘

町

一カ月夫に通ひし立花駅

車窓に見つつ迫りくるもの

大西 米子(下吾川)

梅雨の雷

遠くに去りて 茶をすする

片野 富江(双海町串)

稲刈って

残る案山子の

直立す

玉岡 季美子(灘

町

主なき家

鈴成りの

出来 光子(稲

荷

我が余生

紅葉のごとく 燃えたしや

吉岡 教子(尾 柿が守る

崎

【短歌の部

久方の

友と出会ひし 文化祭

曽根 勝子(下吾川)

(俳句の部)

虫の音に

身を傾けて しまひ風呂

小田 桂子(下吾川)

紫深く咲けるノボタンあがなひて 原産地コートダジュール地図に確かむ 佐々木 幹子(湊 町)

> 沖縄の戦禍の風化許すまじ 十一万人の怒り渦巻く 平田 富美(米

> > 湊

広 告

水木 桂子(宮 下

松田 建雄(米 湊 友澤 ツヨミ(米 湊

時空超えて今斑鳩に遣さるる 百済観音に真向ふわれは

焼酎お飲みと十歳の孫久方に娘夫婦が薄めたる 筒井 義機 稲

瑞子(米 荷 湊

広 告 やさしさ 新築分譲・注文住宅 福祉・介護型住宅を 提案します。 環境にやらし、 オール電化 (H、エコキュート 健康にやさしく 自然素材の順産材 (ヒノキ・スギ) 別にやさしく 三浦工業の数太郎 数水セット 6ヵ月 1年 数・クロス宣言の モイス 無料点検 マミーハウスの家は 愛媛の木を使用しています。 地産地消 地域材利用木造住宅 利子補給制度適用 人にやさしく、家族愛株式会社という。

終ください

- イレ・お風呂・台所を快適にしたい 屋根や雨どいの点検・修理を頼みたい
- フェンスを付けたし
- ●お風呂や階段・廊下に**手すり**が欲しい
- ●浄化槽設置・公共下水道接続を 考えている方 など。。



西岡建材株式

伊予市下吾川946の1 TEL 982-0223 (代)